

個別事業(取組)評価			
事業No.	24	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革
事業名称	不登校・いじめ等対策小中連携事業	担当課	人権教育課
		当初予算額(千円)	20,470
		補正後予算額(千円)	19,343
		決算額(千円)	18,726

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校やいじめ等児童生徒の諸問題は依然として高い水準で発生しており、特に中学1年の段階で急増している。 H21年度不登校児童生徒数/1,000人 <ul style="list-style-type: none"> 高知県(公立小中学校): 12.8人 全国(国公立小中学校): 11.5人 H21年度いじめ認知件数/1,000人 <ul style="list-style-type: none"> 高知県(公立小中学校): 2.6件 全国(国公立小中学校): 5.1件 委託4市(高知市、香美市、南国市、四万十市)の不登校の出現率は全国平均より高い状況である。 <p>【要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級が安心できる場所になっていない児童生徒がいる。 児童生徒が小学校から中学校に進学したとき、学習内容や生活リズムなど環境の変化が大きいと感じている。 少子化や地域のつながりの薄れなどから、社会性が十分に育っていない児童生徒がいる。 小中連携の言葉は良く聞かれるが、目指す子ども像に基づく具体的な手立てが教職員間で共有されていない。 	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>市教委訪問・学校訪問及び委託4市の担当者との委託市合同連絡会議を通じて情報を把握していた。</p> <ul style="list-style-type: none"> H22年度不登校児童生徒数/1,000人 <ul style="list-style-type: none"> 高知県(公立小中学校): 13.3人 全国(国公立小中学校): 11.4人 H22年度いじめ認知件数/1,000人 <ul style="list-style-type: none"> 高知県(公立小中学校): 5.1件 全国(国公立小中学校): 5.6件
		②	目標(Outcome)
③	実施内容(Input・Output)	<ul style="list-style-type: none"> 支援会議の開催(年6回) <ul style="list-style-type: none"> 広域支援会議: 委託市事業関係者及び重点中学校区の管理職が一堂に会し、課題解決のための取組の方向性を確認し、アドバイザーより助言をもらう(年2回) 委託市支援会議: 重点中学校区の全教員を対象にした研修会を開催し、小中連携の取組を深める 人間関係づくりプログラムの実施 個人カードの作成と活用 Q-Uアンケートの有効活用 中学校区連絡会議の実施 不登校等学習支援員の配置(高知市に4名、香美市、南国市、四万十市に各2名) 相談体制の充実(校内支援委員会等にスーパーバイザーの派遣、委託4市各4回) 中1仲間づくり合宿 <ul style="list-style-type: none"> 合宿の効果と補助金についての周知 	<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域支援会議の開催(6月、2月 計2回) <ul style="list-style-type: none"> 第1回: 重点中学校の取組発表、不登校未然防止のための小中連携の方向性の確認、情報交換等 第2回: 委託市の取組発表、取組の総括と来年度への方向性について協議 委託市支援会議の開催(香美市8/8、南国市8/9、四万十市10/12、高知市10/13) <ul style="list-style-type: none"> 重点中学校区の全教職員が参加 小中連携の必要性を確認、アドバイザーからの助言 各重点中学校区における連絡会議・研修の実施 人間関係づくりや個人カードの作成と活用等について検討 不登校等学習支援員による家庭訪問、学習支援の実施 校内支援委員会等へのスーパーバイザーの派遣(5~2月: 16回) 仲間づくり合宿の視察(一部のプログラムに参加)及び、施設の担当者との意見交換 市町村教育委員会訪問における仲間づくり合宿実施の呼び掛け
総合評価と今後の方向		<p>目標達成度 C 「No」を選択した項目 エ</p> <p>【総合評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 委託4市の不登校児童生徒数を平成22年度より30名以上減少させる目標に対して6名の増加となり、目標は達成できなかった。しかし、委託4市の30日以上欠席者数は、22年度より40名の減少となり、改善が見られた。 委託4市や重点中学校区では、小中の連続した人間関係づくりや生徒指導のシステム化、スーパーバイザー派遣による校内支援体制の充実等、組織的な小中連携のシステムづくりが進んできた。 	<p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度は、高知市以外の3市において事業を継続することとし、これまでの取組に加え、小中・小小連携のシステムの定着、児童生徒の自尊感情の向上、スーパーバイザー派遣による校内支援体制の充実について取組を強化し、課題解決の加速化を図る。また、不登校児童生徒数が増加した要因をしっかりと分析し、委託市との連携を図りながら、課題解決に向けて必要な手立てを講じていく。 中1仲間づくり合宿は、目的意識を明確にもって実施することで不登校生徒の減少や問題行動の減少につながっていることから、こうした成果を紹介し、実施校を増やしていく。